

## サケマスの季節 ルシャ地区にやってくるクマが増えました。

今年のカラフトマスの水揚げは、平成に入って最悪の不漁年であった2012年の6割ほどしかありません。少ないマスも、食料が乏しくきびしい夏をすごしたクマたちにとっては、砂漠で出会ったオアシスのようなもの。3本もの自然産卵河川が集中するルシャ地区はとても魅力的な場所なのでしょう。これまで見られなかったクマも確認されるようになりました。

今年ルシャ地区で確認されたクマは、以下の表のとおり、少なくとも39頭(0才の子を除く)。それぞれの8~9月の出現の頻度を色分けして示しました。



新斜里町立図書館(2015年3月オープン)のイメージキャラクター、斜里ほん太くん  
札幌市立大学 園山栄生さん作成

メス成獣 (0才連れ)	ワッキー	子グマ3頭(今は2頭) クサビの子	DC	子グマ2頭	ハッチモ	子グマ2頭
	BE	子グマ3頭(今は2頭)	リッチ	子グマ2頭(今は1頭) GPS標識付き	ワッキモ	子グマ2頭
	ハッチ	子グマ2頭、キリコの子	ドラム	子グマ2頭(今は1頭) GPS標識付き、BEの子	クサコ	子グマ1頭
メス成獣(1才連れ)	0608B-1	子グマ2頭				
メス成獣 (単独)	リンダ	GPS標識付き クサビの子	ワッキモドキ		クサビ	
	キリコ	GPS標識付き、DCの子	ゴルビー	キリコの子	ジュリエット	ワッキモの子
オス成獣	イケメン	ヘアトラップで確認	海老蔵	新規、背擦りで確認	団十郎	新規、背擦りで確認
	テンツパンノ ジョー	新規 糞のDNAで確認	マサミ	羅臼にて死亡 ハツミの子		
若グマ (2~4才)	グリ	♀4才 GPS標識付き リンダの子	スポッチャ	♀4才 DCの子	フィフィ	新規♀ 4才くらい?
	フサクロ	♂3才 ドラムの子	ビーコ	♀3才 BEの子 GPS標識付き	0916B-3	新規、2才?、性別不明
1才子	ポンタ	♂ キリコの子	タンポ	♀ キリコの子 イヤータグ付き	リンダ リンダ	♂ リンダの子 イヤータグ付き
	ダーリン ダーリン	♀ リンダの子	0608B-1の子1		0608B-1の子2	
年齢不明 or 性別不明	0915B-6	新規、性別不明 成♀程度の大きさ	ジェーン	新規♀ ヘアトラップで確認	メー	新規♀ ヘアトラップで確認
	アンジェラ	新規♀ ヘアトラップで確認	ヒコマロ	新規♂ ヘアトラップで確認	トミー	新規♂ 背擦りで確認

出現する頻度 凡例	常連組	少なくとも2~3日に一度は出現
	時々組	1週間に1度程度は出現
	まれ組	月に1~2度程度は出現
	隠密組	姿は見せず、ヘアトラップや背擦り木の毛だけで確認
	失踪組	目視でも、ヘアトラップや背擦りの毛でも確認できず

# 知床の秋 山の実りは大豊作

## 山クマたちを救った山の実り

カラフトマスが大不漁の今年ですが、2012年のように死に至るほどのガリガリのクマはいませんでした。9月初旬まで川に上がるマスがほとんど皆無であった2012年とちがい、不漁ながらもマスは細々と8月はじめから遡上していました。

また、クマたちを大きく救ったのは、山の木の実です。今年は、最も食料がきびしい8月前半から、ハイマツやシウリザクラの実を食べることができたのです。木の実も不作で、本当に食べるものがなかった2012年とのちがいは明白です。

9月も末に入り、秋色が深まった知床の山は大豊作です。ドングリやヤマブドウがたわわに実っています。クマたちも少ないマスよりも、効率よく食べることができる木の实の方に触手を伸ばしつつあるようです。川沿いに姿を見せる頻度が減りました。



ミズナラのドングリをたっぷり食べたヒグマの糞の断面。まるでピーナツバターペーストのようです。9/26の調査では30個をこえるドングリ100%の糞が採取されました。



有刺鉄線に引っかかったヒグマの体毛(写真上)。

背擦り木から体毛を採取する。こんな高いところまで背中をこすりつけたのは、大きなオスグマだろう(写真右)。



## 秋の新規個体の多くは、体毛のDNAから

マスを食べるために集まってきたクマの中には、これまでの調査では未確認のクマもいました。その多くは、ヘアトラップや背擦り木から採取された毛の毛根のDNAの解析で見出されました。

ヘアトラップは森の中に設置した有刺鉄線の柵をクマがくぐり抜けるときに引っかかる毛を採取するものです。背擦り木とは、クマがしばしば背中や頭をこすりつける木です。山の中を注意して歩くと、エゾマツやトドマツなど、松ヤニが出やすい木の樹皮に毛がこびりついているのが見られます。

文責：山中正実(知床博物館)

## 観光船からも見分けやすいクマ

波にゆれる船からは、なかなかクマの特徴を識別することはむずかしいでしょう。しかし、非常に特徴がはっきりしていて、識別しやすいクマも何頭かいます。その代表格は、ハッチ、7才のメスです。幅広い真っ白なツキノワ模様が、首の後ろまでつながって、襟巻きのように見えます。まだ若いメスで、2012年に初産でしたが、カラフトマスの遡上の遅れから子を失い、今は2回目の出産で2頭の子グマを育てています。今年は子グマたちはすくすくと育っています。けっこう気の強いクマで、時折人間に対してもガンをつけてきます。

分かりやすいクマですが、しかし、要注意！ 「ハッチモ」という似た配色のクマもいます。今年は2頭とも、子グマ2頭を連れていて、ますます紛らわしいです。ハッチモの方が頭部から首にかけて、明らかに明るい色で、識別できます。



左が「ハッチモ」、右が「ハッチ」。分かりますか？ ハッチモの意味は「ハッチもどき」を略したもの。

親子そろってえりまきのようなツキノワのハッチファミリー。胸側はエプロン状で、真っ白な幅広いツキノワが首の後ろまで伸びてつながっている。